

報道関係者各位
プレスリリース

2020年6月

株式会社青幻舎

ジャンル：
写真集

写真家 青山裕企が「“少女”とは何か？」を問う、写真集

青山裕企写真集「少女礼讃」^{しょうじょらいさん}発売

株式会社青幻舎は、ベストセラー写真集「スクールガール・コンプレックス」シリーズなどで知られる写真家 青山裕企が、素性の明かされていないひとりの“少女”を謎めいた関係性で撮影し続けている作品を、圧倒的なボリュームでまとめた集大成の写真集「少女礼讃」まとめた集大成の写真集「少女礼讃」を2020年6月下旬に刊行します。



著者への取材などご要望がございましたら、下記担当までご一報下さい。何卒よろしくお願い申し上げます。

株式会社青幻舎／東京支社
〒103-0022 東京都中央区日本橋室町 1-9-4-3F
TEL 03-6262-3420 ・ FAX 03-6262-3423
広報担当：新庄清二 (shinjo@seigensha.com)

書籍概要

「少女礼讃(しょうじょらいさん)」は写真家 青山裕企が、誰も知らない、ひとりの女性を撮影し続けている作品である。

年齢、名前が明かされていない、SNS での情報発信や、モデル・アイドル活動といったこともしていない、どこに住んでいるかも分からない、ひとりの女性。中学生のようなあどけない笑顔と、たまに見せる、驚くほど大人びた表情。小柄で、「女の子っぽい」髪型。しかし、あか抜けない服の中には成熟した体が隠されている……。

2018 年の夏に出会ったこの女性を、青山は毎週のように、圧倒的な量と質で、徹底的に撮影し続けている。青山はこの女性に出会った時に、眩いほどの“少女らしさ”を感じたという。それはこれまで「同級の女の子」を「少年」の気持ちで撮ってきた青山が、「大人」の眼差しを持ったことを意味する。

数々の著名アイドルやモデルなどを撮影してきた青山が、この名もない女性に見出した“少女性”とはなんなのか。それは、これまで固定概念として語られてきた「少女らしさ」「少女趣味」といった枠からはみ出た、ありのままの美しさ。

撮影ごとに異なる表情を見せ、撮影を重ねるほどに、生まれ変わる“少女”。撮影の度に別の誰かになり、撮影が終わるとまた誰でもないひとりの女性に戻る。繰り返し続ける、新しい“少女”との出会いと別れ。撮影者である青山にとどまらず、鑑賞者も巻き込まれていく、“少女”を介したパラレルでエンドレスな行為。

「少女礼讃」は“少女”という存在があって撮ることができる写真であり、“少女”という存在そのものへ畏怖の念を込めた、祈りの儀式の記録である。

書誌情報

発売:2020 年 6 月下旬
書名:少女礼讃
著者:青山裕企

編集:池谷修一
判型:B6 変型
総頁:512 頁
定価:本体 3,500 円+税
ISBN978-4-86152-797-5 C0072

著者プロフィール

青山 裕企(あおやま・ゆうき)
写真家 | Mr.Portrait

1978 年 愛知県名古屋市生まれ。筑波大学人間学類心理学専攻卒業。
2007 年 キヤノン写真新世紀優秀賞受賞。
現在、東京都在住。

『ソラーマン』『スクールガール・コンプレックス』『少女礼讃』など、サラリーマン・女子学生・少女など、“日本社会における記号的な存在”をモチーフにしながら、自分自身の思春期観や少女・父親像などを反映させた作品を制作している。

著者のことば

「少女礼讃(しょうじょらいさん)」は、“個性的な(モデルやアイドルなどの)少女”たちを、仕事などで撮影し続けてきた私にとって、

少女のパーソナリティを一切排除した、いわば“記号的な少女”を、圧倒的に“個性的な存在”として、“礼讃”の思いをこめて、驚異的なペースで撮影し続けている作品です。

「少女はさまざまな形で、大人たちによって搾取されてしまいかねない存在である」ことを自覚しながら、

「大人たちから押しつけられた欲望的、理想的なふるまい」を撮るだけでなく、「少女自身から発せられる生に満ち溢れた表現、欲望的なまなざし」を“礼讃”の思いをこめて撮り続けることは、この世を生き抜かなければならない少女たちに、もしかしたら、“救いと生きる力”を与えることができるかもしれない、と考えています。

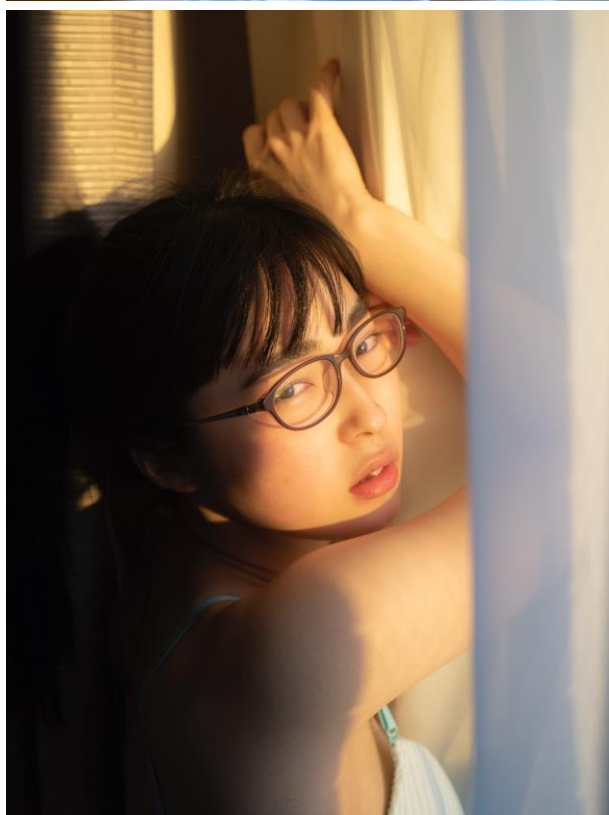
繰り返し消費されていく(ように見える)少女表現のなかで、極私的でありながら、普遍的な少女表現を試みる作品として、社会にとっても(私にとっても)価値がある写真を目指しています。

2020年6月
青山裕企

作品画像①



作品画像②



作品画像③

